

患者さんへ

## 臨床研究に関する情報

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、病理診断後、当院に保管されている検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 腎移植後血圧正常化例における移植腎の病理学的特徴の検討

[研究代表者名・所属] 市立札幌病院 病理診断科 辻 隆裕

### [研究の背景と目的]

腎移植において、移植後に合併する高血圧を移植後高血圧と呼びます。移植後高血圧は腎臓を提供された患者(レシピエント)の予後に影響する重要な因子です。腎移植前のレシピエントの多くは、血圧が高い状態にあり、腎移植後も移植腎そのものの動脈硬化・免疫抑制剤の使用・拒絶反応など種々の要因により、レシピエントの40-60%は移植後高血圧を発症すると言われていています。一方で、移植後高血圧を来さないレシピエントがいることも、古くから経験的に知られています。ある研究では、生体腎移植を受けたレシピエントのうち24%は腎移植前に高血圧があったが、腎移植後に血圧が正常化しました。これまで、腎移植後に血圧が正常化するレシピエントと、移植後も高血圧が持続するレシピエントの腎病理学的特徴を比較した報告はありません。我々は、移植時の腎生検で腎硬化症に特徴的な所見があまり無いレシピエントは、移植後高血圧の発症率が低いのではないかと考えています。本研究では、腎移植前に高血圧を合併していたが、移植後血圧が正常化した症例における移植腎の病理学的特徴を検討し、更には、移植後早期の時点での腎病理所見から移植後高血圧の発症リスクの予測へと臨床応用を目指します。

### [研究の方法]

#### ○対象となる患者さん

腎移植前に高血圧を合併し、市立札幌病院で腎移植を受けられた患者さんを対象とします。

#### ○利用する検体・カルテ情報

検体：移植腎生検の組織（ホルマリン固定し、その後パラフィン（いわゆるロウ）に埋めた組織）の一部を使用し、診療情報と合わせて検討します。

カルテ情報：

- ① 対象となる患者さんの臨床データ：年齢、性別、血圧、血清 Cr、eGFR、尿蛋白量、治療内容、拒絶や感染症などイベントの発生等
- ② 移植腎生検の診断：病理診断名、発症日、診断日、病理組織所見、免疫染色の結果等

[研究実施期間]

実施許可日～2022年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

\*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[当院の連絡窓口]

〒060-8604 札幌市中央区北 11 条西 13 丁目 1-1  
市立札幌病院 病理診断科 辻 隆裕  
電話：011-726-2211 FAX：011-726-9541